

揖斐川森林計画区

第四次国有林野施業実施工計画書

自 平成26年 4月 1日
計画期間
至 平成31年 3月31日

中部森林管理局

この国有林野施業実施計画（以下「本計画」という。）は、国有林野管理経営規程に基づき、国有林の地域別の森林計画及び地域管理経営計画に即し、森林管理局長が森林計画区域内の管理経営する国有林野の箇所別の伐採、更新等について5年ごとにたてる5年間の計画である。

この本計画の計画期間は平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間である。

目 次

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法 及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
(1) 伐採造林計画簿	1
(2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等	1
(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積	2
(4) 伐採総量	2
(5) 更新総量	3
(6) 保育総量	4
3 林道の整備に関する事項	4
4 治山に関する事項	5
5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域	5
(1) 保護林の名称及び区域	5
(2) 緑の回廊の名称及び区域	6
6 レクリエーションの森の名称及び区域	6
7 公益的機能維持増進協定の名称及び区域等	7
8 その他必要な事項	7

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域
国有林野施業実施計画図による。

2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量
並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha、年)

施業型	施業群	面積	施業の方法等		伐期齢 又は 回帰年
			施業方法	目標とする森林	
単層型 (短期)	小面積分散伐区	31.39	育成单層林施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時にモザイク的配置となることで、林齡、林相が異なる多様な森林。	スギ 60 ヒノキ 75
	長伐期	284.09	育成单層林施業	主伐を標準伐期齢のおおむね2倍以上の林齡において行い、成長の旺盛な時期から主伐までの間に成長に応じた間伐を繰り返し、下層植生の発達した森林。	スギ 120 ヒノキ 150
抾伐複層型	人工林抾伐複層型	54.54	育成複層林施業	人工林又は天然林において、抾伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図った複数の樹種及び樹冠層を構成（階層構造）する森林。	85 (35)
	天然林抾伐複層型	26.45	天然生林施業		N 200 (35) L 180 (25)
合 計		396.47			

(注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。

2 () は回帰年である。

(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位: ha)

施業群	上限伐採面積
小面積分散伐区	2.09
長伐期	9.47
抾伐複層型	11.57

(注) 1 上限伐採面積は、計画期間（5年）分の面積である。

2 契約に基づいて主伐を実施する分収林が含まれる場合は、上限伐採面積を超えて定めることができる。

(4) 伐採総量

(単位: m³、ha)

区分		林地					林地以外	合計
		主伐	間伐	小計	臨時伐採量	計		
山地災害防止タイプ	土砂流出崩壊防備		(1.44) 103	103				
	気象害防備							
	計		(1.44) 103	103				
自然維持タイプ								
森林空間利用タイプ								
快適環境形成タイプ								
水源涵養タイプ	小面積分散伐区	8,482		8,482				
	長伐期		2,652	2,652				
	人工林抾伐複層型							
	計	8,482	(27.66) 2,652	11,134				
合計		(29.10) 8,482	2,755	11,237	1,263	12,500		12,500
年平均		1,696	(5.82) 551	2,247	253	2,500		2,500

(注) ()書きは間伐面積である。

(再掲) 市町村別内訳

(単位 : m³)

市町村名	林地					林地以外	合計
	主伐	間伐	小計	臨時伐採量	計		
本巣市							
揖斐川町	8,482	2,755	11,237				

(注) 市町村別内訳には、臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

(5) 更新総量

(単位 : ha)

区分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合計
人工造林	単層林造成					15.66	15.66
	複層林造成						
	計					15.66	15.66
天然更新	天然下種第1類						
	天然下種第2類						
	計						
合計						15.66	15.66

(6) 保育総量

(単位 : h a)

区分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ ^{かん}	合計
保 育	下刈					63.68	63.68
	つる切						
	除伐					7.97	7.97

3 林道の整備に関する事項

(単位 : m)

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長	備考
基幹	改良	樺原谷足打谷(樺原谷)	3166~3169・3173~3178 7箇所	200	
		河内谷	3046~3057 4箇所	100	
	計			300	
その他	改良	岩の子	3034~3045 2箇所	70	
		計		70	
合計	開設				
	改良		13箇所	370	

(注) 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

4 治山に関する事項

(単位：保全施設 箇所、保安林の整備 ha)

位 置	区 分	工 種	計画量
広瀬川上流3、広瀬川上流4、根尾川最上流2 根尾川最上流3、根尾川最上流5、粕川1、粕川2	保全施設	渓 間 工	7
広瀬川上流3、広瀬川上流4、根尾川最上流2 根尾川最上流3、根尾川最上流5、粕川1、粕川2	保全施設	山 腹 工	7
揖斐川計画区管内の保安林区域内	保 安 林 の 整 備	保 安 林 改 良	7.97
合 計	保全施設	渓 間 工	7
		山 腹 工	7
	保 安 林 の 整 備	保 安 林 改 良	7.97

- (注) 1 保全施設の計画量「箇所」数は、「単位流域」数を表す。
 2 位置は単位流域を表す。
 3 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

ア 林木遺伝資源保存林

名 称	新 設 既 設	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徵 等	施 業 等
名古屋ブナ2	既 設	8.71	3024と・る・わ	ブナの一斉林である。	原則として、伐採は行わない。 ただし、保存対象樹種の安定的かつ恒久的な存続を図るために必要な場合は、枯損木、被害木の除去を中心とした弱度の択伐を行う。

イ 植物群落保護林

名 称	新 設 既 設	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徵 等	施 業 等
三周ヶ岳ブナ	既 設	1,130.45	3010~3013林班	日本の原生的な ブナ帯のほぼ中央 に位置し、その連 続性から重要な林 分である。	原則として、人手 を加えず自然の推移 に委ねた保護管理を 行う。
能郷白山ブナ	既 設	641.32	3023林班 3024い～へ・ ち～ぬ・か～た・ イ～ニ 3025林班		
岩の子ブナ	既 設	182.41	3038林班 3039い・ろ・ほ・ り・ぬ		
面 積 計		1,954.18			

(2) 緑の回廊の名称及び区域

名 称	新 設 既 設	延長 (km)	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徵 等
越 美 山 地 緑 の 回 廊	既 設	60 (66)	7,259.63	3001~3009林班 3014~3017林班 3020~3022林班 3026~3033林班 3034~3037林班 3039は・に・へ～ち 3040~3057林班	福井・岐阜・滋賀県 の県境部に位置し、越 美山地の国有林内に設 置されている保護林を 連結することにより、 野生動植物の移動経路 を確保し、生息・生育 地の拡大と相互交流を 促す等森林生態系の保 護・保全を図ることを目的とする。 林況は、ブナ、ミズ ナラ等の広葉樹の天然 林が大半を占めてい る。 施業については「越美 山地緑の回廊設定方 針」による。

(注) () は越美山地緑の回廊全体を表す。

6 レクリエーションの森の名称及び区域

該当無し

7 公益的機能維持増進協定の名称及び区域等
該当無し

8 その他必要な事項
該当無し